ステップ３：サイクル中の各ポイントにおける瞬時値の計算（8.4.2.4.）

$m_{HC,i}=10\times 3\times 0.155=4.650$　(36)

$m_{CO,i}=37.3\times 0.155=5.782$

$m_{NOx,i}=466.6\times 0.9576\times 0.155=69.26$

ステップ６：表６のu値及び瞬時値の積分によるサイクル中の排出量の計算（本則8.4.2.3.）

以下の計算は、WHTCサイクル（1,800秒）で、かつサイクル中の各ポイントにおいて同一排出量であると仮定したものである。

$m_{HC}=0.000479\times\sum_{i=1}^{1800}4.650=4.01g/test$　(36)

$m_{CO}=0.000966\times\sum_{i=1}^{1800}5.782=10.05g/test$

$m_{NOx}=0.001586\times\sum_{i=1}^{1800}69.26=197.72g/test$

ステップ５：平均排出量の計算（8.6.3.）

$e_{HC}=4.01/40=0.10g/kWh$　(69)

$e_{CO}=10.05/40=0.25g/kWh$

$e_{CO}=197.72/40=4.94g/kWh$

1.4.　PM排出量

$P_{b,b}$ (kPa)	$P_{b,a}$ (kPa)	W_{act} (kWh)	$q_{mew,i}$ (kg/s)	$q_{mf,i}$ (kg/s)	$q_{mdw,i}$ (kg/s)	$q_{mdew,i}$ (kg/s)	$m_{uncor,b}$ (mg)	$m_{uncor,a}$ (mg)	m_{sep} (kg)
99	100	40	0.155	0.005	0.0015	0.0020	90.0000	91.7000	1.515

ステップ１：m_{edf}の計算（本則8.4.3.2.2.）

$r_{d,i}=\dfrac{0.002}{(0.002-0.0015)}=4$　(47)

$q_{medf,i}=0.155\times 4=0.620kg/s$　(46)

$m_{edf}=\sum_{i=1}^{1800}0.620=1.116kg/test$　(45)

ステップ２：PM質量の浮力補正（本則8.3.）

試験前、

$\rho_{a,b}=\dfrac{99\times 28.836}{8.3144\times 295}=1.164kg/m^3$　(25)

$m_{f,T}=90.0000\times\dfrac{(1-1.164/8,000)}{(1-1.164/2,300)}=90.0325mg$　(24)

試験後、

$\rho_{a,b}=\dfrac{100\times 28.836}{8.3144\times 295}=1.176kg/m^3$　(25)

$m_{f,G}=91.7000\times\dfrac{(1-1.176/8,000)}{(1-1.176/2,300)}=91.7334mg$　(24)

$m_p=91.7334-90.0325=1.7009mg$　(26)

ステップ３：PMの排出量の計算（本則8.4.3.2.2.）

$m_{PM}=\dfrac{1.7009\times 1.116}{1.515\times 1,000}=1.253g/test$　(44)

ステップ４：平均排出量の計算（本則8.6.3.）

$e_{PM}=1.253/40=0.031g/kWh$　(69)

別紙７　設備及び付属装置の据付要件

番　号	試験機器及び付属装置	排出物試験時の設置
1	吸気装置	
	吸気マニホールド	有り
	ブローバイ・ガス還元装置	有り
	複式誘導吸気マニホールドシステムの制御装置	有り
	空気流量計	有り
	吸気ダクト	有り又は試験台設備
	空気清浄器	有り又は試験台設備（注１）
	吸気消音器	有り又は試験台設備（注１）
	回転数制限装置	有り
2	吸気マニホールドの誘導加熱装置	有り（最も好ましい状態で設置可能な場合）
3	排気装置	
	排出ガス後処理装置	有り
	排気マニホールド	有り
	接続管	有り（注２）
	排気消音器	有り（注２）
	テール管	有り（注２）
	排気ブレーキ	無し又は全開（注３）
	過給機	有り
4	燃料供給ポンプ	有り（注４）
5	燃料噴射装置	
	プレフィルタ	有り
	フィルタ	有り
	燃料噴射ポンプ	有り
6	高圧管	有り
	インジェクタ	有り
	吸気バルブ	有り
	電子制御装置、センサ等	有り
	ガバナ，制御装置	有り
	大気条件に応じた制御ラックの自動フルロード制限装置	有り